

横浜市記者会 発表

2022年2月7日  
横浜市立大学附属病院

## 附属病院で療養中の子どもたちが 現役ラグビー選手とオンラインで交流！

横浜市立大学附属病院小児科病棟に入院中の子どもたちが、「横浜キャノンイーグルス<sup>\*1</sup>」所属の現役ラグビー選手とオンラインで交流します。

アスリートとの交流の機会を提供し、長期入院中の子どもたちを支援する活動を行う特定非営利活動法人 Being ALIVE Japan<sup>\*2</sup>によるイベントで、当日は入院中の子どもたちと現役ラグビー選手2名が、ラグビーの動きとラグビー文化を取り入れた「ラグッパ体操<sup>\*3</sup>」に取り組みます。また、子どもたちと選手がトライ（目標）を共有し、互いを応援し称え合う活動を行います。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、面会や外出制限がある子どもたちにとって、現役アスリートとの交流は「ヒト」や「社会」と繋がる貴重な機会になります。昨年度に続き今年で2回目になるこのイベントですが、今後も継続的に実施し長期療養中の子どもたちの支援に取り組んでいきます。

### 【実施内容】

- 日 時 : 2022年2月14日(月) 15:15 ~ 16:15  
会 場 : オンライン(附属病院院内学級にて)  
参加選手 : 竹澤正祥選手、山菅一史選手(横浜キャノンイーグルス)  
企画・運営 : 特定非営利活動法人 Being ALIVE Japan  
参加者 : 小児科病棟に入院中の子どもたち  
内 容 : ラグッパ体操、子どもたちと選手のトライ(目標)の共有、選手からのメッセージ等

### 【昨年度実施したイベントの様子】



\* 1 横浜キヤノンイーグルス

新リーグ NTT JAPAN RUGBY LEAGUE ONE 所属のラグビーチーム、横浜市、大分県をホストエリアとして活動しています。

\* 2 特定非営利活動法人 Being ALIVE Japan

Being ALIVE Japan(所在地：東京都世田谷区、理事長：北野華子)はスポーツを通じて、長期療養中の子どもたちの仲間 (TEAMMATES) を創出することで、青春と自立を支援する非営利団体。TEAMMATES 活動を通して、治療をしながら、長期療養の子どもたちが最高のこども時代「青春」を実現できる小児医療、未来、社会に貢献しています。

ホームページ：<https://www.beingalivejapan.org>

\* 3 ラグッパ体操

ラグビーの動きとラグビー文化をもとに、日本を代表するトレーナーのメソッドを取り入れ、ラグビー元日本代表の佐々木隆道氏（現：一般社団法人 DAEN 代表理事）が考案した、低負荷で低速度の体操エクササイズです。

## 【参考】

〔横浜市立大学附属病院小児科の取り組み〕

附属病院小児科では、2018年4月より CLS (Child Life Specialist) を神奈川県内の大学病院で初めて配置し、子どもたちの療養を支援する活動をしています。CLS とは、病院という家庭とは異なる環境で治療に臨むこどもやその家族を支援する専門職で、こどもや家族が抱える精神的負担を軽減して、主体的に医療を受けられるようにサポートする専門家です。今回のイベントに際しても病棟内の子どもたちがイベントを楽しめるようサポートします。

## 【取材に関して】

新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン上での撮影・取材のみとなります。主催団体より、限定公開 URL を送付し、当日の様子をライブにて配信します。活動後に、主催団体、協力選手やチームスタッフ、病院担当者への直接取材の機会をオンライン上で設けます。また、活動写真に関しましては、病院担当者が撮影し、後日主催団体より皆様に素材提供いたします。

※ただし、当日参加のお子さん全てが、メディアへの掲載を控えたくなった場合、提供できる素材に限られる可能性があります。

当日の取材を希望される場合は、事前に主催団体まで取材申請をお願いいたします。

**SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS** 横浜市立大学は、  
様々な取り組みを  
通じてSDGsの達  
成を目指します。

